

は し が き

『東アジア戦略概観』は、我が国唯一の国立の安全保障シンクタンクである防衛研究所を代表する定期刊行物として、今回で24年目の刊行を迎えた。日本語版と英語版を通じて、厳しさを増す東アジアの安全保障問題について、日本の戦略環境認識を国内外に発信する唯一無二の年次報告書として定着している。

本書は、日本の安全保障に影響を及ぼす周辺諸国の動きを定点観測した地域章と、東アジアの安全保障に関わる時宜にかなったテーマを取り上げるトピック章から構成されている。本号においては、貿易摩擦から覇権争いへと先鋭化する米中の対立や、デモに揺れる香港に対する中国の習近平政権による対応、「危機回帰」をめぐり揺れ動く朝鮮半島情勢、中距離核戦力全廃条約の終了がもたらす影響などについて分析した。また、こうした戦略環境において、日本が政府一体として進める「自由で開かれたインド太平洋」構想の意義についても解説した。

編集方針として、文責を担う執筆者の氏名および分析根拠を示す脚注を明示することにより、研究者が独自に分析した学術専門書としての性格を明確にした。また、図表や写真、解説記事、略語一覧などを備えることで、東アジアの安全保障に対する一般読者の理解が進むよう配意した。

本書は、2019年1月から12月までの1年間における安全保障上の重要な事象について、防衛研究所の研究者が内外の公刊資料に依拠して独自の立場から分析・記述したものであり、日本政府あるいは防衛省の見解を示すものではない。また、本書に登場する人物の役職・肩書は、原則として記述する事象が生じた当時のものである。

本書の執筆は、(序章)橋本靖明、(第1章)一政祐行、(第2章)門間理良・岩本広志、(第3章)渡邊武・小池修、(第4章)松浦吉秀・富川英生・真辺祐子、(第5章)兵頭慎治・長谷川雄之・坂口賀朗・澤田寛人、(第6章)新垣拓・切通亮、(第7章)佐竹知彦が担当した。また、編集作業は、菊地茂雄、福島康仁、助川康、真辺祐子、長谷川雄之、押手順一、

浅見明咲が担当した。

本書の内容が、東アジアの戦略環境に対する関心と理解を深め、日本がよりよい安全保障政策を追求するための知的議論の材料提供になれば幸甚である。

令和2年（2020年）3月

防衛研究所 政策研究部長

『東アジア戦略概観2020』編集長

橋本靖明